

林 野 庁  
北海道森林管理局  
釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター

# 平成17年度 年 報

平成18年3月31日発行



## この1年を振り返って

(所長 藤村 武)

「釧路湿原」と名の付いた当センターは、釧路湿原自然再生協議会の事務局として環境省などと共に自然再生活動を支援しています。また、高齢級トドマツの立ち枯れ被害区域では自然再生事業の実施者として「自然再生実施計画」を作成中です。

今年度は実施計画を作成するために必要な基礎的な調査を主に実施しました。また、自然再生と共に活動の大きな柱である「森林環境教育の支援」では、活動区域内の校長会を通じたPR活動やアンケート調査、更に要請に応じた出前森林教室を積極的に実施しました。

このようなセンターの活動を年報としてとりまとめましたので、是非ご一読下さい。

## 自然再生への取り組み

### 1 これまでの経緯

釧路湿原の上流にある雷別地区国有林には林齢 70 年を超えるトドマツの人工林がありますが、このトドマツ林が平成 12 年に気象害を受け、疎林や無立木地になっています。この被害跡地の再生は「自然再生事業」として進めています。自然再生推進法に基づいた「釧路湿原自然再生協議会」でその事業内容を検討しています。



被害跡地

### 2 基本的な考え方の整理

この協議会には、森林・林業関係者だけでなく様々な人が関わっており、この中で事業内容を説明し、納得してもらうためには誰もがその内容を理解できるように考え方を整理する必要があります。

これまでに「なぜ、事業を行うのか」「なぜ、その箇所で行うのか」「どのような森林にするのか」の 3 点について整理しました。

#### (1) なぜ、事業を行うのか

事業予定地の雷別地区国有林の下流には、釧路湿原東部 3 湖沼の一つであるシラルトロ沼があり、国有林からシラルトロ沼までのシラルトロエトロ川の周囲には湿原が広がっています。このシラルトロ沼、シラルトロエ



保全対象

トロ川とその周囲の湿原は貴重な自然環境であり、この事業ではこれらの自然環境を保全するために自然再生事業を実施することになりました。

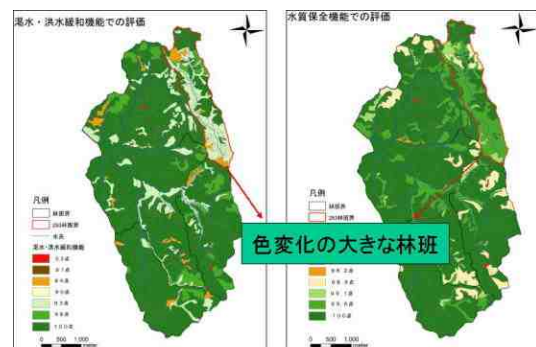
#### (2) なぜ、その箇所で行うのか

シラルトロ沼や湿原の保全のため、国有林の中のどの場所で事業を行う必要があるか、事業を行う場所は客観的な方法で選出される必要があります。

このため、国有林の森林の状態を評価して、その評価結果により、事業箇所を選出することにしました。

国有林の 8 個林班（約 2,000ha）で、この評価を実施した結果が図 2 です。

図の右上の箇所に、色が違う箇所がまとまっているのがわかります。これは、水土保持上でのマイナスがある箇所がまとまっているということで、この箇所 293 林班は、水土保持の点で、比較的問題があり、事業を実施する必要性があるということがわかりました。



評価結果

#### (3) どのような森林にするのか

この事業はふれあいセンターで実施する自然再生となることから、生物多様性の保全に重点を置く必要があるため、郷土樹種による森林を目指すことにしました。

雷別地区の郷土樹種は、近隣にある天然

林試験地の樹種を参考にしました。この試験地はハルニレ、イタヤカエデ、ヤチダモ等が主体の広葉樹林です。

そこで、将来の目標とする森林については、広葉樹を主体とした森林と考えています。

天然林生長量固定試験地(301い)  
 プロット面積 1ha 昭和40年設定



天然林試験地

### 3 自然環境を把握するための生態調査

雷別地区国有林の事業対象予定地周辺の自然環境を明らかにするための基礎的な生態系調査として、河川・湿地の魚類調査及び鳥類調査等を実施しました。

#### (1) 魚類調査

魚類調査は、国有林内の河川のほか、より下流のシラルトロエトロ川がシラルトロ沼に注ぎ込む河口に近い地点でも実施しました。

調査の結果、環境省のレッドデータリストや北海道のレッドデータリストに指定されている6種を含む8科14種615尾を採捕しました。



調査地点

#### (2) 鳥類調査

鳥類調査はラインセンサス法、定点観測法を用いて行い、夜間の定点観測も行いました。

調査の結果、9目20科43種の鳥類を確認しました。確認された種のほとんどは樹林性のエゾライチョウ、フクロウ、クマガラ、イスカ、カケスなどの種で、この他にタンチョウなどの湿地、草地などを生息地とする種も確認されました。



ラインセンサス



定点観測

#### (3) 地表性甲虫調査

その他、事業対象予定地及びその予定地周辺の様々な場所(下表参照)で地表性甲虫(オサムシ、ゴミムシ類)の採取を行いました。

地表性甲虫は、移動能力が比較的低く、定量的な調査対象として適していると考えられており、森林の状態の変化をモニタリングするための対象種の候補と考えているからです。来年度も継続して調査を行い、モニタリング対象種として適切かどうか判断する予定です。

地点名	調査区分	樹種	採捕区分
ST-1	湿地	トドマツ植林(河川沿いの森)	-
ST-2	湿地(水たまり)	湿地(水たまり)	-
ST-3	ミズナラ植林	都立(1)水たまり(植林地)	3年
ST-4	オウゴンマツ植林	成層地(植林)	20-30年
ST-5	沼沿いの広葉樹林	沼沿いの植林	40-50年
ST-6	ヤチダモ植林	-	40-50年
ST-7	ハルニレ・ケヤマハンノキ植林	ST-6より若い植林	60-70年
ST-8	ダケカンパ植林	-	60-70年
ST-9	ハルニレ・ケヤマハンノキ植林	大植木あり	60-70年
ST-10	ミズナラ・カシナ科	大植木あり	80年

調査箇所一覽表



## 森林環境教育への取り組み

### 1 校長会へのPR

平成16年度は、PR不足などにより、ふれあいセンターの認知度がほとんど無く、これらを踏まえながら、平成17年度の主な取り組みとして

- 小中学校 校長会でのPR
- 森林環境教育への要望の把握
- 森林環境教育の実施

の3点について進めました。

についてはふれあいセンターのPRとして昨年の5月に活動区域内の校長会で「森林環境教育ガイドブック」と「ポケットガイド」を配布しました。



また、**、**については、校長会を通じたアンケートを実施し、現在、各学校で実施されている環境教育の内容や問題点を把握し、アンケートで出前教室を希望しているところには、センター職員が出向いて森林教室を実施しました。

配布したガイドブックはそれぞれ平成16年度末に作成した物で「釧路の森林」は活動区域内にあるパイロットフォレストを紹介しながら、これらの国有林の特色のあるフィールドを活用し森林の大切さと関心を高めてもらうための「指導者向け」のものです。

「森林は友達」は釧路地方で見られる樹木をイラストと解説で説明しながら森林とふれあうためのものでA6判で持ち歩きがで、き、「子供たち」用のものです。

なお、「森林は友達」はセンターの広報誌、新聞等で紹介され、希望する管内の小中学校に約3,000部配布しました。

### 2 アンケートの実施

校長会では、各学校で行っている環境教育の内容等を把握するためのアンケートを行いました。

#### (1) アンケート項目

- ・学校で行っている環境教育は？
- ・環境教育を行うときの問題点は？
- ・ふれあいセンターが授業の中でお手伝いをするなら？
- ・ガイドブック、ふれあいセンターに対する意見、要望等は？

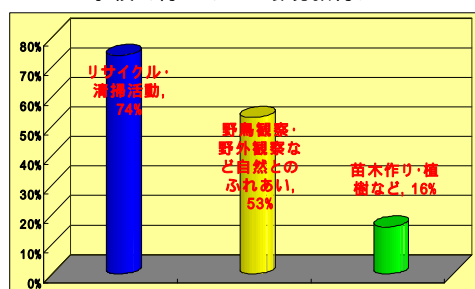
このアンケートについては、99校中22校から回答がありました。

#### (2) アンケート結果

学校で行っている環境教育については表-1のとおりで、一番多かったのはリサイクル・清掃活動等74%、次に野鳥観察・野外観察などの自然とのふれあいが53%、苗木作り・植樹などは16%となっており、半数以上の学校で自然とのふれあい活動を実施しています。

実施内容を工夫すればセンターとして協力出来る物があると考えられました。

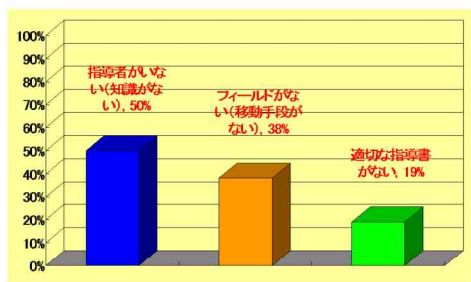
表-1 学校で行っている環境教育は？



次に環境教育を行うときの問題点については表 - 2 のとおりで、半数の学校で指導者がいない、4 割近くがフィールドがないとなっており、指導者不足・活動場所の不足が大きな問題となっています。

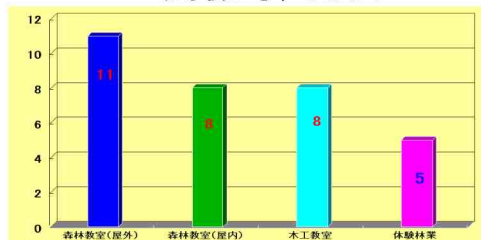
その他 2 割が適切な指導書がない、となっています。

表-2 環境教育を行うときの問題点は？



また、ふれあいセンターが授業の中でお手伝いをするならについては、表 - 3 のとおりで森林教室が屋外11件・屋内 8 件、木工教室 8 件、体験林業 5 件となっています。

表-3 ふれあいセンターが授業の中でお手伝いをするなら？



### 3 森林環境教育の実践

今年度はこれまでに小学校で 6 カ所、その他で 5 カ所において出前森林教室を実施しました。

そのうち学校単位で取り組んだ釧路市立柏木小学校の事例を紹介します。

釧路市立柏木小学校は、森林環境教育の進め方で最初に先生に対する研修会を実施しました。

後日、子供たちに対して森林教室と木工教室を実施しましたが、先生たちが事前に

樹木のことや、森林の大切さ、また地球温暖化と森林との関係などについて知識を持ってもらおうと、子供たちへの事前学習や森林教室後のフォローをきちんと行うことが出来、学習効果を高めることができると思われました。



先生への研修会



森林教室(樹木観察)

### 4 森林環境教育インフォメーション

センターで実施してきた森林環境教育については、7 月から「森林環境教育インフォメーション」を毎月、発行し、活動区域内の教育委員会や小中学校に配布するとともにふれあいセンターのホームページでも情報の提供を行っています。



インフォメーション創刊号

## この1年間の取り組み

### 4月～6月

#### <流域データのとりまとめ>

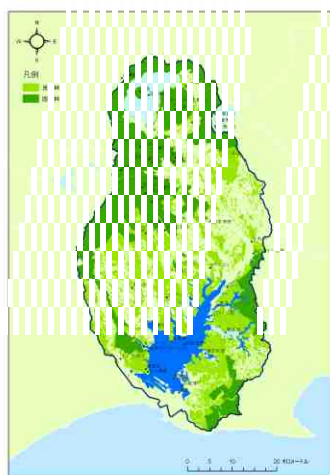
釧路川流域の国有林データを釧路湿原自然再生協議会に提供

釧路湿原自然再生協議会の森林再生小委員会において、流域全体の森林の状況を把握するために国有林のデータを提供してほしいという要請がありました。

民有林のデータについては、既に北海道から提供されており、国有林から提供されるデータと合わせて森林に関する情報を一体的に整備しようというものです。

この要請を受けて、当センターが窓口となり、釧路川流域の国有林に関する森林調査簿データを提供しました。

今後、民国一体となった釧路湿原から屈斜路湖までの森林データは釧路湿原を保全するための様々な活動の基礎資料として活用される予定です。



### 7月～9月

#### <森林環境教育の実施>

釧路市ことばを育てる親の会（言葉や聞こえが不自由な子どもを持つ親の会）の交流会に参加

釧路市内の3つの小学校に設置されている言葉の教室に通学している子どもを持つ親が学校と協力して実施した親子交流会にふれあいセンターが参加しました。参加者

全員で標茶町国有林内のミズナラの巨木を見学し、14人の子どもたちが手をつないで木の大きさを実感するなど、普段の生活では感じることがない森林の雰囲気を楽しみました。その後、輪切りにした円盤に絵を描いて自分だけの特製コースター作りを楽しみました。

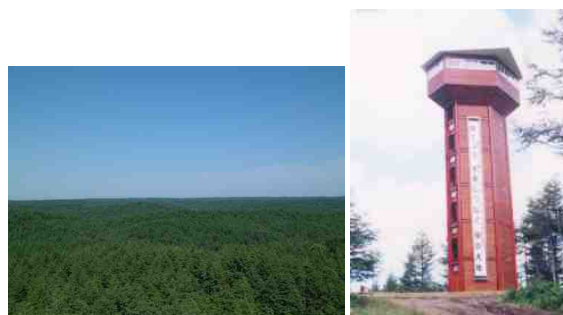


京都大学フィールド科学教育研究センター（北海道研究林）学生実習に協力

京都大学の実習「道東の植生と林業」の中で霧多布湿原、パイロットフォレストの視察に同行し道東林業の特徴、パイロットフォレスト等についての説明を行いました。

当日は台風の影響が懸念されましたが、パイロットフォレストに向かう頃には天候も回復し、望楼からのカラマツ造林地の遠望に学生たちはしばし言葉を無くしていました。

今後も森林科学を学ぶ学生たちの教育の場としてパイロットフォレストを活用し、学生の実習に協力していきます。





10月～12月

<センターのPR>

「道民森づくりネットワークの集い」でセンターの活動を紹介

道内で森林に関わって様々な活動を行っている森林ボランティアなどがその活動を紹介する「道民森づくりネットワークの集い」が札幌市の赤レンガ（旧道庁）で開かれました。当センターも「ポスターセッション」に参加し、センターが実施している森林環境教育や自然再生事業についてポスターや写真を使って紹介しました。

このポスターセッションは、単に自分たちの活動を発表するだけでなく森づくりに関わる人達が交流することも目的のひとつであり、「交流タイム」を通じて他の団体の参加者と話をすることにより北海道各地



で行われている様々な活動について理解を深めることができました。

<モデル事業検討会>

「雷別地区自然再生推進モデル事業検討会」を開催

昨年度に引き続き、雷別地区モデル事業検討会を開催しました。

第1回の検討会は、今年度実施した各種基礎的な調査（事業対象地を把握するための調査、森林再生の技術的な検討のための調査、現地の自然条件を把握するための生態調査）の結果から抽出されたいくつかの課題について検討を行いました。

第2回の検討会では、具体的な森林再生のための技術的課題（区域設定の考え方、再生手法、事業計画など）について検討を行いました。

2回の検討会を通じて議論された内容は「雷別地区自然再生実施計画」（素案）と

してとりまとめ、今後、釧路湿原自然再生協議会や森林再生小委員会に諮ることになります。



1月～3月

<北の国・森林づくり技術交流発表会>

森林ふれあい部門で2課題発表

北海道森林管理局が主催して開催された平成17年度北の国・森林づくり技術交流発表会は、森林管理局関係者だけでなく北海道森づくりセンター、高校、NPO等幅広い参加を得て行われました。

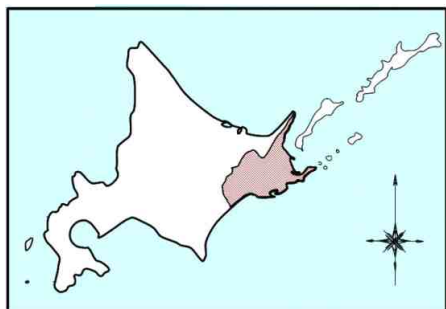
この発表会において、当センターから2課題の発表を行いました。

発表した課題は、「自然再生事業への取り組み - 釧路湿原自然再生協議会の中での活動 - 」と「森林環境教育への取り組み - アンケートを通じた意向把握とその対応 - 」で、日頃からセンターが実施している活動内容をとりまとめたものです。

これからもこのような機会にセンターの活動を積極的に紹介して行きたいと思っています。



## 釧路湿原森林環境保全ふれあいセンターの主な活動区域



### 林 野 庁

#### 北海道森林管理局

#### 釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター

連絡先：〒085-0825

北海道釧路市千歳町 6-11

TEL：050-3160-5787, 0154-44-0533

FAX：0154-41-7305

e-mail：h\_kushiro\_f@rinya.maff.go.jp

HP (ホームページ)：http://www.hokkaido.kokuyurin.go.jp